

札幌市立幌西小学校の取組

1. 研究のねらい

本校では、平成 25 年 12 月に学校図書館開放事業として地域開放図書館が設置された。本格開設一年目に当たる今年度は、地域と保護者の図書館ボランティアと連携を充実させ、学校生活の様々な場面で読書に関わる活動を実施し、子どもたちが本に親しみ、よりよい読書活動を身に付けることができるようにすることを目指した。

2. 取組内容

(1) 地域と保護者の図書館ボランティアとの連携

① 図書館掲示・お便り

開放司書を中心に図書館ボランティアが定期的に装飾を更新した。「七夕」や「クリスマス」といった季節の装飾以外にも、「サッカーワールドカップ開催」や「日本人のノーベル賞受賞」など、話題になっている事柄に関する本を集めて掲示することで、子どもたちの興味や関心を高めた。また、図書委員会と連携して、おすすめの本を紹介するコーナーを設けた。自分のおすすめの本が紹介できるということで、図書委員児童はやりがいを感じていた。



さらに、開放図書館便りを通して新刊案内やボランティア活動の紹介をするなど、家庭や地域に向けて館内の様子を発信することが出来た。

② 読書活動に関わるイベント

地域や保護者ボランティアが中心になって朝の読み聞かせを実施した。学年や学級に合わせた本を選んでくれるため、子どもたちも本の世界に引き込まれるように聞き入っていた。さらに、英語と日本語を交互に取り入れての読み聞かせや、父親の協力を得た「おやじの読み聞かせ」など、バリエーション豊かな読み聞かせを実施することができた。



また、開館一周年記念の行事としてロールシアターを行ったり、貸出し冊数上位の児童を表彰したりした。

(2) 児童委員会の活性化

① 読書週間での取組

読書ウィークと題して、「絵本の読み聞かせ」「スタンプラリー」を実施した。読み聞かせは、図書委員会の児童が選んだ絵本を低学年を中心に読み聞かせた。スタンプラリーでは、期間中に本を借りるとスタンプがたまり、集めると図書委員が作ったしおりがもらえるという取組を行った。その結果、本を読むたびにスタンプがたまるこ

とが励みにもなり、普段よりたくさんの児童が図書館へ足を運ぶ効果が得られた。

②人気の本の紹介

全校朝会の時間を利用し、各学年で人気の貸出し本を紹介した。図書委員会の児童が貸出し冊数の多い人気の本を調べ、各学年の傾向をまとめた。全校で集まる場を利用し発表をすることで、ふだんは図書館利用が少ない児童にも興味をもってもらえる機会となった。



(3) ふれあい活動を通じた読書活動

本校では、異学年同士のふれあいペアをつくり、定期的に活動の場を設けている。そのふれあい活動を利用して、お互いに読み聞かせを実施した。普段は、読み聞かせを聞く立場であることが多い低学年の児童も、聞いてもらう立場になることで、相手のことを考えて準備や練習をする姿が見られた。



(4) 図書館環境の整備

学校図書館アドバイザーに来校していただき、司書教諭と開放司書とともに廃棄本の基準や図書の選定を学んだ。両者の連携の大切さを教えていただいた。

3. 成果と課題

(1) 成果

地域開放図書館が設置されたことで、たくさんの保護者が図書館ボランティアとして図書館運営に携わってくれた。そのため、昨年度にはなかった多くの読書活動を取り入れることができた。

また、環境整備についても、開放司書・図書ボランティアと学校で連携することによって、よりよい環境づくりができた。休み時間における開放司書・ボランティアの滞在時間が増えたため、子どもたちは読みたい本を見つけるときにアドバイスをもらったり、パソコンの不具合にすぐ対応してもらったりなど、スムーズな貸出しや図書の管理を進めることができた。結果、たくさんの児童が図書館で本を借りるようになり、昨年度の同時期と比べておよそ 6,000 冊増加していることも大きな成果と言える。

(2) 課題

全校的に見ると、読書量が増えてはいるが、学年や個人の間には差が見られた。

次年度は、子どもたちがより様々なジャンルの本に興味・関心をもち、より読書活動の幅が広がる活動に取り組んでいく必要があると考えている。

